第５回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC3D 関係＞国際会議出席報告書
5-3／SC3D-①	SC3D「電気・電子技術分野のメタデータライブラリ」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091021
5-3／SC3D-②	SC3D「電気・電子技術分野のメタデータライブラリ」オランダ／ロッテルダム国際会議出席報告書 20091109-20091111
資料 No.	＜SC47 関係＞国際会議出席報告書
5-3／SC47A-①	SC47A/WG2「集積回路／デジタル回路」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20091125
5-3／SC47A-②	SC47A/WG9「集積回路／EMC 測定法」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20091123-20091124
5-3／SC47A-③	SC47A「集積回路」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書書 20091127
資料 No.	＜SC47D 関係＞国際会議出席報告書
5-3／SC47D-①	SC47D「半導体パッケージ」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20091125-20091126
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議出席報告書
5-3／SC62D-①	SC62D/MT22「診断用及び患者モニタ用医用電子機器」ドイツ／フランクフルト国際会議出席報告書 20090928-20091002
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC80-①	TC80/WG10A「舶用航海および無線通信装置とシステム」ドイツ／ハンブルグ国際会議出席報告書 20091005-20091007（開催場所変更：英国／ロンドンより）
5-3／TC80-②	TC80/WG8B「舶用航海および無線通信装置とシステム」英国／ロンドン国際会議出席報告書 20091005-20091009
資料 No.	＜TC91 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC91-①	TC91/Plenary「電子実装技術／総会」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091009
5-3／TC91-②	TC91/WG1「電子実装技術／電子部品」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091008
5-3／TC91-③	TC91/WG2「電子実装技術／組立」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091008
5-3／TC91-④	TC91/WG3「電子実装技術／試験方法」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091006-20091007
5-3／TC91-⑤	TC91/WG12「電子実装技術／設計」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091008
資料 No.	＜TC100 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100-①	TC100「AV･マルチメディア・システム･機器／総会」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091022
5-3／TC100-②	TC100/AGS「AV･マルチメディア・システム･機器／戦略諮問会議」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091022
5-3／TC100-③	TC100/AGM「 AV･マルチメディア・システム･機器／運営諮問会議」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018
5-3／TC100-④	TC100/GMT「ジェネラルメインテナンス会議」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091022
5-3／TC100-⑤	TC100/MT61938「MT61938 プロジェクト」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091022
資料 No.	＜TC100/TA1 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA1-①	TC100/TA1「放送用エンドユーザ機器」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091021

資料 No.	＜TC100/TA2 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA2-①	TC100/TA2「色彩測定およびカラーマネジメント」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091022
資料 No.	＜TC100/TA4 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA4-①	TC100/TA4「デジタルシステムインタフェース&プロトコル」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091019
資料 No.	＜TC100/TA6 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA6-①	TC100/TA6「放送･業務用ストレージ」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091020
資料 No.	＜TC100/TA7 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA7-①	TC100/TA7「AV マルチメディア民生用ストレージ」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091020
資料 No.	＜TC100/TA8 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA8-①	TC100/TA8「マルチメディアホームサーバシステム」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091021
資料 No.	＜TC100/TA10 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA10-①	TC100/TA10「マルチメディア電子出版及び電子書籍」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091018-20091022
資料 No.	＜TC100/TA11 関係＞国際会議出席報告書
5-3／TC100TA11-①	TC100/TA11「AV マルチメディアシステムの品質」イスラエル／テルアビブ国際会議出席報告書 20091021
資料 No.	＜ CISPR 関係＞国際会議出席報告書
5-3／CISPR-①	CISRP SC-I「マルチメディア機器等に関する EMC」米国／ヒルスボロ国際会議出席報告書 20091019-20091023
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議出席報告書
5-3／SC31-①	SC31/WG5/RTLS-WG「自動認識及びデータ取得技術」アイルランド／ダブリン国際会議出席報告書 20091015-20091016
資料 No.	＜JISC/CENELEC 関係＞国際会議出席報告書
5-3／JISC/CENELEC-①	JISC/CENELEC「日本工業標準調査会／欧州電気標準化委員会情報交換会」イタリア／ミラノ国際会議出席報告書 20091104-20091106

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC3D-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 11 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21SC3D②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野典子　報告書作成者氏名：荒木純夫　（会社名）株式会社ビューポイント情報科学研究所　17

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC3D (半角)
TC3	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
TC3 Work Shop	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	電気・電子技術分野のメタデータライブラリ
SC3D	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC3D/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 18 日 ～ 2009 年 10 月 21 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Hiroshi Murayama（日）	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本，ドイツ，スウェーデン，フィンランド，韓国，ルーマニア，イスラエル，中国、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 荒木純夫(株式会社ビューポイント情報科学研究所)，村山廣(東芝) [SC3D 議長]		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 参加者：今回の SC3D/WG2 meeting の出席者は，日本 2，ドイツ 3，スウェーデン 1，韓国 2 であり，Convenor が病気により欠席，オランダが欠席となった。コンビナーと中心メンバーのオランダのメンバーが欠席したことによりやや低調であったが，今回から韓国からのメンバーが参加した。SC3D plenary meeting には，さらにフィンランド 1，ルーマニア 1，イスラエル 1，中国 1 に中央事務局の担当者が加わった。

今回の委員会で特筆すべきことは韓国からの参加であり，今後活発な活動してくれることが期待できる。また中国の参加状況について，SC3D に限らず TC3 全体に対して最近は後ろ向きであるという情報をもたらしてくれた。実際，数年前までは複数のメンバーが参加していたが，今回は SC3D plenary meeting にのみこれまでに見たことのないメンバーが一人参加し，しかもだれとも挨拶もせずにそそくさと消えた。また，TC3 plenary meeting にも全く参加していなかった。

2. SC65E からの 61630 データベースへのインプット（制御機器）が具体的に始まった旨，報告があった。

3. 今回の討議の新しい話題として，Smart Grid への SC3D の関与について討論が行われた。

4. SC3D の委員会の名称が“ Product properties and classes and their identification ”に変更となった。

5. TC3 Workshop において，新しい 61360 データベースと新機能についてデモンストレーションが行われた。特に，61360 データベースへの Change Request によるデータ登録の窓口として，Excel のようなスプレッドシートに記載されたデータの正誤をチェックしてインポートするという機能が斬新であった。1999 年，京都会議において前 SC3D 議長の Dr. ラドレーがデルファイによる単独アプリケーションで 61360 データベースの基本形を構築したことを説明し，そのシステムに合わせて報告者が，Dr. ラドレーのシステムに新規申請用のデータをインポートさせるためのアプリケーションを試作してから，10 年の歳月を要してようやく実用的なシステムとしての形が出来上がったと言える。

6. 来年の SC3D/WG2 meeting は，フランクフルトで 2 月 8，9，10 日開催，その後は 5 月乃至 6 月に日本開催が決まった。また SC3D plenary meeting は，来年 10 月のシアトルでの general meeting に合わせて開催予定である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC3D-②（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 11 月 18 日

（報告者記載）予算番号：H21SC3D③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　南野典子　　報告書作成者氏名：　南野典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区　分		組織番号(TC/SC/TA)	SC3D (半角)
IEC SC3D/WG2 - ISO TC184/SC4/WG 2 JWG	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		名　称(日本語)	電気・電子技術分野のメタデータライブラリ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 11 月 9 日 ～ 2009 年 11 月 11 日			
開　催　場　所	（国名）オランダ	（都市名）ロッテルダム		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Reinhard Nerke(独)	幹事国　ドイツ		
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 日、独、蘭、米、仏、中、韓、墺、参加人数（12）			
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○南野典子（東芝）、村山廣（東芝）			

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

IEC SC3D と ISO TC184/SC4 は一部規格をダブルロゴ規格にするなどして関係が深い。共通審議事項なども多いことから、年に一度、ISO TC184/SC4 の会議開催に合わせて JWG を開催することにしている。

主な議題は、

1）辞書（要素ごと）の版管理、

2）日本が提案しているデータ交換形式 Parcel 形式（IEC62656-1 として NP 成立、現在 CD 投票中）でのカーディナリティ実現方式、

について等であった。1）これまで辞書要素のメタ情報とそれに対する操作（追加、削除、修正）の組み合わせで版管理のルールを定めていたが、基本的な大枠ルールを定めるべきとのコメントを受けて、ISO 側で基本ルールの案を作成した。規格文書が既に ISO/IEC 双方で DIS 投票後であり技術的な大きな修正は出来ない、内容の合意が出来ていないにも関わらず、案の作成者は IS 文書に入れることを強く主張したが、IEC 側は大きな変更であること、辞書の版管理は辞書データモデルとは別の規格とするべきだと主張し、年内に再調整することになった。2)については現行データモデルでの実現案を日本が提示、出席者の同意を得た。

なお、次回の SC3D/WG2 は、2 月にドイツ・フランクフルト DKE で行われる。

以上

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC47A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 12 月 7 日

（報告者記載）予算番号：H21SC47A③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤義行　報告書作成者氏名：　市川浩司　（会社名）(株) デンソー

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG2 (半角)
SC47A/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路/ディジタル回路
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 11 月 25 日 ～ 2009 年 11 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷真一郎(日本)	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 日本、フランス、ドイツ、韓国、スイス、イギリス　参加人数（16）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 中村篤（ルネサス）、齊藤義行（パナソニック）、○市川浩司（デンソー）、○横溝剛一（ルネサス）、○三谷真一郎（日立）、和田修己（京大）、春日壽夫（NEC エレクトロニクス）		

1　前回（クラクフ）会議の議事録確認

Wrapup8.1 項 IEC 62433-1 の処置について一部修正し承認された。

2　ドキュメント進捗の確認

	クラコフ会議 →	今回ミュンヘン会議
IEC TS62433-1, (Framework)	47A/808/CD (2CD)	47A/825/CD (3CD)
IEC 62433-2, (ICEM-CE)	Published	
IEC 62433-3, (ICEM-RE)	PWI(waiting for NP)	NP 提案無し
IEC 62433-4, (ICIM)	PWI(waiting for NP)	NP 提案無し
IEC 62433-2-1 (Black box modelling)	47A/809/DC	47A/826A/DTR

IEC 62433-3,-4 の状況について確認した。FRNC は-4 については次回会議('10/05 を予定)までに準備するとしたが,-3 については FRNC からの提案は難しいことが報告された。処置は未定。

3　ドキュメント審議

3.1　IEC TS62433-1, (Framework)　プロジェクトリーダー：JPNC（市川委員、デンソー）

3CD を回覧したがコメントは無く、DTS への移行が承認された。
又、Framework の内容、2CD から 3CD への変更点について和田委員から説明した。
特に Annex に示した各モデルの要件を示した表は、-3 以降の審議とともに
メンテナンスしていくことが重要であることを説明した。
プロジェクトリーダーは DTS を'10/02/28 までに回覧する。

3.2　IEC 62433-2-1,(Black box modelling)　プロジェクトリーダー：JPNC（横溝委員、ルネサス）

47A/826A/DTR コメントについて審議した。プロジェクトリーダーは本ドキュメントを修正後、
09/12/31 までに TR 発行のためのドラフトを準備する。

4 その他

三谷コンビナーが退任の挨拶をされた。後任は JPNC の中で検討していることを説明した。
次回の予定　2010 年 5 月 17 日～21 日に開催。場所は未定。Video 会議で開催するか、オランダが候補。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC47A-②（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日: 2009年 12月 7日

（報告者記載）予算番号：H21SC47A⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　齊藤義行　　報告書作成者氏名：　齊藤義行　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A/WG9	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 11 月 23 日 ～ 2009 年 11 月 24 日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Christian Marot（仏）、	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	6ヶ国、主な国名 日本、フランス、ドイツ、韓国、スイス、イギリス、参加人数（18）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村篤（ルネサス）、○齊藤義行（パナソニック）、市川浩司（デンソー）、横溝剛一（STARC）、三谷真一郎（日立）、和田修己（京大）、春日壽夫（NEC エレクトロニクス）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1　前回（クラクフ）会議の議事録確認　修正なく承認された

2　IEC 61967-6: Magnetic Probe 法（日本提案）に対する Technical Corrigendum 発行について
2002 年発行の規格書に数字の間違いが２点あり、日本 NC より Corrigendum の発行を提案。修正内容を説明し了解された。ただし、修正手続きについては 27 日のプレナリーにて決定することとなった。

3　IEC 61967-8: IC Stripline 法について　CD へのコメントはなく、CDV に移行することが決定した。

4　IEC 62132-6: LIHA について　韓国の賛成により Project がスタート。主に技術的な点について議論がなされた。CD ステージへの移行も可能だが、規格化期限が残り２年であること、技術的修正点が多いことから再度 NP をすることも検討され、プレナリーで相談することとなった。

5　IEC 62132-8: IC Stripline 法について　2nd CD への投票締切（12 月 4 日）前だが、投票済みの DE コメントと国際幹事の指摘事項を審議。日本からはカバーあり/なしの２つのセットアップの説明が不十分であることを指摘し、説明の追記が決定した。投票締切まで待って、他にコメントがなければ CDV へ移行する。

6　IEC 62215-3:　Nonsynchronous transient injection 法について
NP に対するコメントの審議を実施し、Observation を FIX。CD ステージに移行することで合意。

7　メインテナンスについて　アンケート結果をもとにメインテナンスの進め方について議論。IEC 62132-1（日本担当）については 12 月末までに MCR を準備することとなった。修正点は①タイトルから周波数記述を削除、②ノイズ耐性レベルの分類修正、③新規 Part の追記の３点。IEC 61967-4, 5, IEC 62132-5 については韓国が「すぐに修正すべき」を選択しているため、Convener が韓国の意向を確認することとなった。

8　韓国からの新提案　韓国 NC から「Necessity of Near Field Scan Standardization」と題したプレゼンテーションがあった。新提案に向けてはアンテナや PCB 等の詳細情報、既存規格（IEC 61967-3：Surface Scan 法）との違い等を明確にすべきとの意見が出された。

9　次回の予定　2010 年 5 月 17 日～21 日に開催。場所は未定。Video 会議、オランダが候補

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC47A-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009年 12月 7日

（報告者記載）予算番号：H21SC47A⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　齊藤義行　　報告書作成者氏名：　春日壽夫　（会社名）(株) NEC エレクトロニクス

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A (半角)
SC47A/WG2	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2009年 11月 27日 ～ 2009年 11月 27日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	George, Roger G(イギリス)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、韓国、イギリス　参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] 中村篤(ルネサス)、三谷真一郎(日立)、○春日壽夫(NEC エレクトロニクス), 中島(NEC エレクトロニクス)		

・IEC 中央事務局からの最新情報および各 WG 活動状況の報告と計 9 件の審議文書の次期段階への決定を実施

1）　IEC 活動最新情報 (IEC TC 47 and SC の活動)

・ 事業計画の具体的な目標策定及び IEC 活動と市場要求の合致の評価対象 (pilot evaluation) に TC47 が選定

・ CD の投票期間が今までは 3ヶ月であったが 2, 3 or 4 ヶ月を選択可能, 文書は原則白黒 (極力カラーを避ける)

2）　各 WG の活動報告が担当コンビナからされ、審議決定を実施

① WG2: logic digital integrated circuits (コンビナ：日本　三谷)

・62433-1 TS は DTS へ移行, 62433-2-1 TR は TR へ移行

・62433-3 のフランス提案は時期未定, 62433-4 のフランス提案は 6 月

・三谷氏 (日立) がコンビナ退任. 引継ぎは日本国内委員会で検討→12/15 に候補者の投票等の手続き文書を配布

② WG4: Interface circuits (コｓンビナ:英国)

・活動が停滞中. 各国に存続／新たな活動の有無, メンバ登録のアンケートを出す (英国が準備、2010/1/20 まで)

③ WG7：Advanced hybrid ICs including 3-D device (コンビナ:日本　春日)

・韓国に 3 次元デバイス分野の標準化意向あり. 韓国で案を作成し,「3次元デバイスの標準化」活動の母体とする

・現在の登録メンバは韓国のみなので、改めてメンバ公募の手続きを実施 (2010/1/30 文書配布, 2010/3 期限)

④ WG9: Test procedures and measuring methods for EMC (コンビナ：フランス)

・62132-6, 62215-3 は CD, 62132-8, 62132-2, 61967-8 は CDV, 61967-1-1TR は TR へそれぞれ移行

・61967-6 Am1 (日本提案) は技術訂正版発行に関し各国にコメントを求める手続きを実施

・韓国の EMC 測定方法 Near Field Scan については次回までに NP 提案ができるように詳細案を提示してもらう

⑤ 既発行の国際標準規格の見直し　65 件の発行規格のうち、31 件の確認を行い承認

⑥SMB から要請されている事業計画 (SBP: Strategic Business Plan) の最終文案の審議実施

特に次の新しい事業計画の内容と時期を明確にして作成し、2009/11/28 までに TC47 国際幹事へ送付

・WG4のメンバ選出依頼／新たな活動体制確立 (2011), WG7のメンバ選出及び新規事業計画提案依頼 (2010)

3）　次回会議　WG2、WG7、WG9 の会議は 2010 年 5 月にオランダ, SC47A 総会は 2010 年 10 月に米国開催

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1 (千代田ファーストビル南館)　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　5-3／SC47D-①　（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 12 月 7 日

（報告者記載）予算番号：H21SC47D①, ②, ③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　吉田　浩芳　　報告書作成者氏名：　吉田　浩芳　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC47D (半角)
SC47D	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他		
SC47D/WG1	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称(日本語)	半導体パッケージ
SC47D/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 11 月 25 日 ～ 2009 年 11 月 26 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	SC47D:中村氏(日本、ﾕﾆﾃｸﾉ)、WG1:Lee 氏(韓国)、WG2:Ahr 氏(ドイツ)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、韓国、イギリス、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 中村 伸一(ﾕﾆﾃｸﾉ)、○中島 宏文(NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ)、○山田 宗博(ﾙﾈｻｽﾃｸﾉﾛｼﾞ)、吉田 浩芳(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今回の会議は、一時期開催さえも危ぶまれていたが、無事開催する事が出来たばかりでなく、また、議事もスムースに進み、実りの多い会議であった。

今回初めて、すべての審議案件が日本提案のみとなり、各国の動静が注視されていたが、独・韓より、新規提案の申し出があり、今後の規格作成バランスに明るい兆しが見えた。

【SC47D】

① 12 案件が審議された。

・NP:今回は新規提案がなかったが、ドイツ 2 件、韓国 1 件、日本 1 件の新規提案を計画する事になった。
・CD:1 件(個別半導体外形)。審議の結果 CDV へ移行する事になった。
・CDV:3 件、FDIS:2 件の進捗確認。PUB:1 件(日本提案/図面の書き方)進捗確認。
・MCR:4 件提案内容確認。
・個別規格のデータベース化検討 1 件。ドイツの協力を仰ぐ事になった。

②TC91 の一部提案と SC47D の SCOPE とが衝突しており、TC91 とのリエゾンを検討する事になった。

③メンテナンスプランに無理が生じているため、現況に合わせて時期の見直しを行った。

【WG1】

・独からのバリエーション追加コメントについて、日本側が拒絶、別途ドイツが新規提案する事になった。
・データベースの検討は、個別半導体パッケージに名前が無い事で難航しているため、独の協力を仰ぎ進める。

【WG2】

・審議中の案件の進捗確認を行った。
・日本より MCR 提案分の修正内容説明を行った。特記事項無し。

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 10月 13日

（報告者記載）整理番号：H21SC62D⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤 正章　報告書作成者氏名：真柄　睦、乾　清　（会社名）日本光電工業、フクダ電子

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/MT22 (半角)
SC62D/MT22	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	診断用及び患者モニタ用医用電子機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009年 9月 28日 ～ 2009年 10月 2日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）アンドーバ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Klaus Neuder	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、スイス、日本、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○ 真柄 睦(日本光電工業株式会社)、○ 乾 清(フクダ電子株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景：MT22は、モニタ・診断機器（心電計、脳波計）に関するIEC国際規格の改定を担当している。2005年に大改訂された安全通則 IEC 60601-1:2005 第3版に対して、担当する個別規格との整合性を取る改定をしている。今春、下記規格のCommittee Draft for Vote(CDV)が発行され、各国からのコメントが寄せられている。

・IEC 60601-2-23　経皮ガス分圧モニタ　・IEC 60601-2-26　脳波計　・IEC 60601-2-27　心電図モニタ
・IEC 60601-2-34　観血式血圧モニタ　・IEC 60601-2-49　多機能モニタ

目的：IEC 60601-2-27 心電図モニタ規格案に対するコメントを検討し、規格案の修正作業を行った。

成果：日本から、57件のコメントを提出し、48件はアクセプトされた。テレメータでは満足できない性能要求事項があることから、テレメータを適用範囲から除外するよう日本から要求した点については、テレメータに対する性能要求の緩和を検討することになり、実質的に要求が受け入れられた。EMC試験については、診断装置であってライフサポート機器ではないこと、第4版がまだ審議中であることから、IEC 60601-1-2 第三版を参照することとし、他のMT22規格にも水平展開することとなった。入力インピーダンスについては、ANSI/AAMI EC-13を引用し、シングルエンドで2.5 MΩ、差動入力間で5 MΩとした。アクセプトされなかった項目の中には、技術的に大きな問題になるものはないが、図もしくは数値でゲイン表示を行うことや、アラーム不活性化のリモート機能をON/OFF可能とすることなど、既存製品の大部分が対応していない機能があり、今後も販売する製品については設計変更が要求される。アラーム規定については、副通則IEC 60601-1-8と異なる規定に関して異議を唱えるコメントが各国から寄せられた。しかし、現行の副通則がICUなど医療スタッフが、患者に付き添っていない状況を想定していない部分があり、安全を考慮して、異なる要求事項を規定することはやむを得ないとの結論に達した。なおIEC/SC62AとISO/TC121/SC3のJWGを再開し、IEC 60601-1-8の改定作業を行うことになっており、そこで規定の見直しが行われる可能性がある。

問題点：アクセプトされなかった項目の中には、技術的に大きな問題になるものはないが、図もしくは数値でゲイン表示を行うことや、アラーム不活性化のリモート機能をON/OFF可能とすることなど、既存製品の大部分が対応していない機能があり、今後も販売する製品については設計変更が要求される。アラーム規定については、副通則IEC 60601-1-8と異なる規定に関して異議を唱えるコメントが各国から寄せられた。しかし、現行の副通則がICUなど医療スタッフが、患者に付き添っていない状況を想定していない部分があり、安全を考慮して、異なる要求事項を規定することはやむを得ないとの結論に達した。なおIEC/SC62AとISO/TC121/SC3のJWGを再開し、IEC 60601-1-8の改定作業を行うことになっており、そこで規定の見直しが行われる可能性がある。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009 年 11 月 27 日

（報告者記載）整理番号：H21TC80⑩

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG10A	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 5 日 ～ 2009 年 10 月 7 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ハンブルグ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr Volker Koehler	幹事国　UK	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 英国、ロシア、ドイツ、フィンランド、オランダ、日本、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○植野 哲夫（東京計器）、○田北 順二（日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景　：統合化航海システム(INS)の規格審議、開発のための WG である。

2．目的　：IEC 61924-2 の CD 付きの NWIP(80/559/NP)が承認されたことから、新設された WG10A が INS（統合化航海システム）試験のための試験規格 IEC 61924-2 を開発することになった。

3．成果

1) 規格の開発スケジュール

CDV 発行目標を 2011 年 1 月、FDIS のための会議を 2011 年の 9 月に開催予定し、IS 発行目標を 2012 年 3 月とし、CDV 発行までに、6 ～7 回の会合を開催することになった。今回は、CD ドラフト規格の各章の内容確認、見直しをメインの作業とし、入力文書の検討は、今後の会合で行うことになった。

2) 規格開発の方法

①CD 内容を各章毎にレビューを行う。その時に、各国からの CD コメントを考慮する。

②用語の定義は、規格全体の確認が完了してから、適切な定義をなるようにする。

③INS に使用するインタフェースは、WG10A で更に検討を加え、WG6 に提出し、WG6 のコメントを反映した内容を Normative Annex として規格に盛り込む。

3) 審議内容

①INS の定義を確認した。INS は、「ルートモニタリング」、「衝突予防」タスク／機能を実現するワークステーション（マルチファンクション表示器）を提供することが必須であり、「自動／手動の航海制御」タスク／機能があってもよいとし、IEC 61924-2 にて試験を実施、IMO、INS の要件を全て満たすものを INS と呼ぶ。（IMO 性能基準 MSC.252(83), IEC 61924-2 に適合しないものは INS ではない。）

②5.1.2.2　NOTE: Integrity の IEC 62288 での定義の紹介は、不要なので削除する。

③5.1.2.2　(Availability, validity and integrity) 本試験は、Unavailability data のみチェックする。5.3.1(Validity と 5.5(Integrity)で、Unavailablity 以外の試験は実施する。

④5.1.4 (Interface General)　INS 内部は、IEC 61162 か適当なインタフェースがない場合、メーカ独自のインタフェースを用いることができる。INS から外部へのインタフェースは、IEC 61162 に適合することを試験する。インタフェースは、Annex(Normative)として規定するが、IEC 61162 に INS のインタフェース規格が制定された場合は、INS 規格のインタフェースのための Annex は、削除する。（IEC 61162 を参照すること）

⑤INS のアラート・マネージメント用のインタフェースとして、全く新規のセンテンスを用いる方式と、従来の ALR, ACK を用いる方式の２つの方式が提案されているが、どちらを採用するかの結論はでなかった。今後、WG6 や各国委員会の意見を踏まえて取り扱いが審議することになった。

⑥CCRS (common reference system)、CCRP (Common reference point)については、Task グループが更に規格の要件、試験方法について検討を行い、次回 12 月の WG10A 会議で議論することになった。

4）次回の会議　12 月 7 日～9 日、フィンランド・ヘルシンキにて開催予定 (5.5 Intergirty Monitoring から審議する。)

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009年 11月 27日

（報告者記載）整理番号：H21TC80⑨

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG8B	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009年 10月 5日 ～ 2009年 10月 9日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peggy Browning	幹事国　UK	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、米国、ﾄﾞｲﾂ、ﾉｰﾙｳｪｰ、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ,英国、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○古山 賢二(日本無線)、○矢内 崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１背景　海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上がIMO にて推進されている。

2　目的　（1）80/557A/CDV として回章された IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART に対する参加各国からのコメントの集計された資料を基に審議と結論出しを行い、CDV として回章されたドキュメントの精緻化を行い、FDIS 案に仕上げる。（2）9 月 8/9 日に開催された TC80 総会での AIS に関する審議結果で早急なメンテナンスを必要とする規格の検討と今後の WG での開発項目のスケジュール化の整合を行う。

3　成果：（1）80/557A/CDV　IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART　に対する各国コメントの集計資料とコメントを盛込んだ FDIS 案が TC80　Secretary から提出。それらを基に審議を行い、FDIS 案を作成した。特筆すべき項目は以下の通りである。

①IMO　SOLAS 船舶への搭載開始が 2010 年 1 月 1 日からとなっていることから､TC80　Secretary が出席をした。

②日本からの 23 点のコメントと本会議にて 3 項目の追加コメントを含めて 48 項目のコメント全てを審議した。

③無線関連として、スプリアスエミッションに EPIRB 装置使用帯域（406MHz～406.1MHz）の測定追加、送信電力想定計算式の修正及び検定機関での検査に提供する機器間の送信電力の差をメーカ情報として提出するとした。

④緊急通報装置の分類である EPIRB 装置と同様に EMC 試験のうち、Radiation 測定はスプリアス測定で置き換え、残りは IEC60945 に従って AIS-SART の試験をするとした。

上記の審議結果から、CDV ドキュメントを改訂して、FDIS 案として TC80 事務局に送付をする事で合意した。

（2）2009 年 9 月 25 日付けにて回章された 80/574/NP　AIS　Class-B　"SO"の開発対応について、参加メンバーでの事前審議で、NP 承認とエキスパート登録見通しとして、残り 1 カ国の曖昧さを残すだけとなった。

（3）TC80　Secretary からの総会報告を受けて、以下の内容が合意された。

①IEC62287-1　Class-B"CS"　AIS が 2011 年 3 月にメンテナンスの期限を迎えることから、現在課題とされている項目の検討と変更内容のドキュメント化を行い、Ed.1 の Amendment として CDV の回章。

②IEC61993-2　Class-A　AIS は 2010 年 3 月頃までに Ed.2 の CDV 案を作成することでスケジュール化を確定。

③IEC62320-3/-4 としての AIS　Repeater　Station 及び Limited　Base-station の IEC 規格作成の推進の実行。

④Inland　AIS の NP 原案はドイツが依頼文書を作成、その規格化作業への対応に出席メンバーは支援を表明。

4　次回会議は 2010 年 2 月 22 日～26 日で、場所は日本か米国として Convenor での調整項目とした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 10月 19日

（報告者記載）予算番号：H21TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　前嶋　和彦　（会社名）ソニー［株］

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009年 10月 9日 ～ 2009年 10月 9日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter Bergman/Diter Bergman,H.Kasuga	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	10ヶ国、主な国名 ドイツ、UK、USA、オランダ、ブラジル、ロシア、フィンランド、韓国、中国、日本、参加人数（32）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)］ ○前嶋（ソニー）、○多田（金沢工業大学）、梅垣（NEC）、土生（村田）、○山本（オフィス山本）、春日（NEC エレクトロニクス）、鶴田（千住金属）、萩尾（日本ゲンマ）、荒金（ソニー）、芹沢（日立）、柴田,小泉,青木（JPCA）青木（コーア）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的：IEC/TC91 国際幹事として WG が策定・提案している IEC 規格文書の審議の運営と、規格文書の日本側の意向の反映と、日本からの提案文書の IEC 規格化への推進を図るためのサポートを行なう。

成果：＜IEC/TC91/WG1,WG2,WG3,WG4,WG5,WG10,plenary 会議に出席＞

Plenary 会議の報告。前回（2008年10月、USA・サンノゼ開催）の議事録の確認が行なわれ、承認された。下記 WG の活動報告がなされた。

①WG1:IEC 61760-3 Ed.1 は 91/856/CDV の反対意見ゼロで editorial な修整 2 点のみなので FDIS をスキップして IS 発行が可能かどうか IEC-CO に確認して進めることとなった。

②WG2:IEC 61191-6 Ed.1(ボイド試験)は 91/878/RVC が circulation され FDIS へ進むことが確認された。IEC 61190-1-3 Ed.2 は FDIS のドラフトが 11 月までに作成されることになった。

③WG3:IEC 60068-2-44 Ed.2,IEC 60068-2-58 Ed.3,IEC 60068-2-83 Ed.1,IEC 6068-2-82 Ed.1, IEC 62137-3,IEC 61189-11 の文書進捗報告とその審議、今後の予定についての報告があった。新しい Project として「Erosion test methods fro the materials of wave soldering equipment by lead free solder to be proposed by JNC」の紹介説明があった。NP が発行される予定である。

④WG4:IEC61249 シリーズ津の文書進捗報告がなされた。　CDV 段階文書 2 件、FDIS 段階文書 8 件、CD 段階文書 5 件が報告された。

⑤WG5:IEC 60194-6 の CD が 2009 年 12 月末か 2010 年 1 月中旬までに発行されることが報告された。

⑥WG10：部品内蔵基板に関する PAS/NP が紹介され、新たに TC91 内に WG を設立することが提案され承認された。

⑦WG12:IEC 61188-5 シリーズのメンテナンス計画が報告された。IEC 61188-8 は日本より提案され 2008 年の 7 月に NP が承認された。IEC 61188-8-1 から 8-5 までの進めかたについては次回 Phenix での会議で議論されることになった。

⑧議長より SMB からの要請事項である SBP の改訂については WG の Action　Plan の改訂案を 10 月末までに国際幹事に送付する旨要請があった。

⑨次回 2010 年は 11 月 29 日から 12 月３日にブラジルで開催されることになった。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 10月 19日

（報告者記載）予算番号：H21 TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金秀幸　報告書作成者氏名：土生　正　（会社名）株式会社村田製作所

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC91(半角)
TC91/WG1	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 8日 ～ 2009年 10月 8日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	W. Huck （ドイツ）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、フィンランド、ロシア、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○土生正、青木仁(KOA)、大島寛、前嶋和彦（TC91 国際幹事）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景・目的

WG1の新規プロジェクトであるMSLの分類と包装に関する規格化の方向付け、IEC 61760-3 (スルーホールリフロー部品の要求事項)のCDVに対する日本コメントへの対応審議、IEC 62090（包装ラベルへのバーコード規格）の改正に対する方向付けの審議において日本の主張を反映させる。

2. 審議結果

1)MSLの分類と包装：JEITAで実施したアンケート結果を基に、規格開発の必要性と共に、湿度に敏感でない部品グループに関する現状の半導体規格の問題点を報告した後、コンビナが準備した新規規格の構成案について審議した。構成の概要、リーダをドイツ（W.Huck氏）とすること、今回審議した構成案をベースとした内容でリーダがNP提案を提出すること、Expert登録を日本、フィンランドが行うこと、米国に登録要請すること、及びプロジェクトリーダが4月末までにWDを準備し、2010年のTC91京都会議の際にプロジェクト会議を行うことで合意した。

2) IEC 61760-3：日本から提出したラベル表示に関するコメントが基本的に合意され、その他のeditorial修正を加えてFDISをスキップしてISに進むことで合意した。

3) IEC 62090（バーコード）：ドイツから提出された改正ドラフトを添付して、改正プロジェクトを進めるか否かについてDC文書を発行して意見を求めることで合意した。

4)その他

・WG1のメンバーリストから近藤氏の登録抹消手続きをする。
・MRDの見直し実施。
・SC47Fの審議中テーマを確認し、WG1の関与が必要なテーマがないことを確認。
・SBPのItem E, Relation to other technical committeesにESDを考慮してTC101を追加することで合意。

5)次回の会議はMSLのプロジェクトを京都会議で、WG1会議を2010年のPlenary 会議に合わせて開催することとした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009年 10月 13日

（報告者記載）予算番号：H21 TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：　梅垣　淳一　（会社名）日本電気株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2009年 10月 8日 ～ 2009年 10月 8日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Bergman （米国)	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、ロシア、参加人数（15）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] 多田邦雄（TC91 国内委員会委員長）、山本克己（テクノオフィスヤマモト）、荒金秀幸（ソニー）、○梅垣淳一（NEC）、○芹沢弘二（日立製作所）、鶴田加一（溶接協会）、萩尾浩一（ニホンゲンマ）、柴田明一（JPCA）、前嶋和彦（TC91 国際幹事）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

日本提案のボイド評価基準はFDIS案をC/O提出済みで10月末までに発行予定。フロー実装用鉛フリーはんだ材料追加等を盛り込んだ鉛フリーはんだ材料改訂案はCDVコメントの審議を終了しFDIS案を作成提出する。はんだ付け品質基準はDC文書のコメントをベースに進め方を検討した。可能な選択肢を整理し、全体会議で方針決定した。

1）IEC 61191-6：ボイド評価基準のFDIS案提出の最終報告

・グルノーブル会議の審議結果に基づき作成したRVC（91/878/RVC）及びFDIS案の提出につき最終報告した。C/Oからのエディトリアルな修正に対応中で、10月末までに発行予定。

2）IEC 61190-1-3：鉛フリーはんだ材料の改訂のCDVコメント審議

・日本提案のフロー実装用低銀鉛フリーはんだの追加を主な内容とする改訂作業中のCDV（91/847/CDV）コメント（91/886/INF）につき審議した。すべてのコメントについてオブザベーションを確定し、RVCおよびFDISを作成発行することとなった。

3）IEC-61191s and 61192sのメンテナンス

・「はんだ付け品質基準（61191sと61192s）の改訂」につきDC文書（91/869/DC、91/870/DC）に対する各国コメント（91/887/INF、91/888/INF）をを確認し、ドイツから提案されている進め方について審議した。提案は、①エディトリアルなアップデート②IPC文書と整合した文書への全面改訂の2段階で進めるというもので、IPC等業界規格と2重標準となっている現状への問題意識が背景にあり、WGでは決着がつかず、選択肢を整理して最終日の全体会議で各国の意見を聞いて決定することとなった。

・全体会議では、日本から鉛フリーはんだ実装対応の追加提案した①の修正案及び、IPC規格との関連が特に深いワークマンシップ（61192s）については、61191sからIPC文書を直接参照し、61192s自体は廃止する案で各国の合意が取れ、改めてDC文書で各国意見を確認して、改訂作業を進めることとなった。

4）Pj#61190-1-2：ソルダーペーストの改訂

・改訂時期が近づいたため、次回、鶴田さんから提案がある予定。

5）Pj#61190-1-4：導電性接着剤の材料と選定方法

・JPCA&JIEPで作成を進めている導電性接着剤に関するレポートを配布予定（2010/10まで）

6）次回会議

・2010年6月1日（火）京都。秋は11月ブラジル・サンパウロで開催の予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 10月 14日

（報告者記載）予算番号：H21 TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：　春日　壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91/WG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 6日 ～ 2009年 10月 7日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	春日 壽夫（日本）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、独国、英国、フィンランド、ブラジル、オランダ、ロシア、韓国、、参加人数（29）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)］ ○青木（KOA）、○春日（WG3国際コンビナ：NEC エレクトロニクス）、大島、 萩尾（日本ゲンマ）、気賀（ソニー）、荒金（ソニー）、西川（大阪大）芹沢（日立）、 山本（オフィス山本）、梅垣（NEC）、柴田（JPCA）、前嶋（TC91国際幹事：ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的：電子実装技術にかかわる実装後の試験方法につき審議している。

2．成果： TC91WG3（電子実装技術/試験方法）国際会議

●鉛フリーはんだに関する標準化提案

[IS 発行完：3件(日本担当3件)、審議6件（日本担当4件＋1件共同)、新規提案3件（日本担当2件）]

1)IS（3件）：

IEC 62137-1-3 Ed.1:落下試験、-4 Ed.1: 繰り返し折り曲げ試験、-5 Ed.1: 機械的せん断疲労試験

2)審議文書（6件）：

①IEC 60068-2-44 Ed.2(リーダ：ドイツ／はんだ付け試験のガイドライン)：MRC(10/31)及び WD(1/31)

②IEC 6-0068-2-58 Ed.4 (リーダ：大島／はんだ耐熱性試験)：91/799/INF：WD(11/30)、CD(2010/7/31)

③IEC 60068-2-83 Ed.1(リーダ:大島／SMD のはんだ付け性試験･ソルダペーストを用いる平衡法):91/846/CD:2009/9 に CDV ドラフト作成

④IEC 62137-3 Ed.1（リーダ：山本／IEC62137 部品接合強度試験方法のガイダンスドキュメント)：91/876/CD：CDV（12/31）

⑤IEC 61189-11 Ed.1(リーダ:萩尾／はんだ融点試験方法)：91/879/CD 回覧中（投票期限：11/20）

⑥IEC 60068-2-82 Ed.1(リーダ：坂本、ドイツ／ウィスカ試験方法)：91/871/INF：タイトル変更が承認

3)その他新提案予定（3件）：

①ウィスカ発生における外部機械的応力のガイダンス（リーダ：坂本）[PWI]：SC48B での審議を当面見守る。

②電気化学マイグレーション：61189-5 への SIR テストの追加提案。（12/31、リーダ：英国）[PWI]

③フロー槽エロージョン試験方法：NP を提出することになった。（10/15、リーダ：西川/荒金）PWI

3．次回会議

2010年5月31日～6月1日、京都(第11回 JIC 国際会議と同期開催)

4．課題

関連する TC との共同活動（関連する TC のドキュメントが、国際委員会に自動的に配布されないので、重複活動や他の委員会での審議案件への対応遅れの可能性。）

・TC47WG2（半導体信頼性）：既に合同会議を年１回実施

・SC48B（コネクタ）：外部応力のウィスカにつき審議がされており審議状況を注視

・TC107（航空機用電子部品のプロセスマネジメント）：高信頼性電子部品の試験方法が審議されており、今後合同会議が必要か見守る必要がある

［注］： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009年 10月 15日

（報告者記載）予算番号：H21 TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：荒金　秀幸　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91/WG12 TC91/TC93/JWG 11	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術/プリント基板設計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 8日 ～ 2009年 10月 8日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter W.Bergman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 アメリカ/ドイツ/韓国/日本、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○荒金 秀幸(ソニー)、○気賀 智也(ソニー)、柴田明一(JPCA)、山本 克己(TOY)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

・目的：① IEC 61188-5-1 今後の進め方審議
② IEC 61188-7 Zero Orientation 状況確認
③ IEC61188-8 3D 形状ルールの審議
④ IEC61182-2-2 基板製造のための CAD データ提供フォーマット提案（US）

・成果：(1) IEC 61188-5-1(Printed boards and printed board assemblies -Design and use -Part 5-1 Attachment (land/joint) considerations Generic requirements について，今後の進め方を審議した。
1) IEC61188-5 シリーズの新規提案を下記のようにすることとした。
・IEC61188-5-1: Generic.
・IEC61188-5-2: land-pattern description for the basic components for SMD.
・IEC61188-5-3: land-pattern description for the basic components for IMD.
2)上記３つの文書をメンテナンスすること、また、IEC-61188-5-4. 5-5, 5-6, & 5-8.の標準は取り下げる（廃止する。）旨を国際委員会に報告する。
3)2010-3 で要求されているメンテナンスの日程を CDV. – 2012 12 Circulate への変更提案およびメンテナンスチームのメンバー募集を国際委員会で行う。

(2) IEC 61188-7 Zero Orientation
2009 年 5 月に国際規格として発行された。

(3) IEC 61188-8(Component Shape Data Specification for 3D CAD Library)の審議
1) CD 文書（91/860/CD）に対するコメントのレビューを行った。
2) 配置方向からくる部品の X 寸法と Y 寸法の関係を展開した。

(4) JWG11(Data Transfer) IEC61182-2-2(Printed board assembly products – Manufacturing description data and transfer methodology; Part 2-2: Sectional Requirements for Implementation of Printed Board Fabrication Data Description)：ガーバーファイルのコピーと IEC 61182-2 フォーマットへの変換については、IEC 61189-5 の appendix：試験方法のように両者のコード設定が可能である。

(5) その他
IEC61188-8 規格化のプロジェクトリーダーであった山内委員が、ソニーを退社し標準化活動（TC91/JNC）の委員を退いたこと、また日本として山内委員の後任者を検討中である旨を JNC として報告した。

(6) 次回予定
January 14 15, Phoenix, April 8, Las Vegas, May 31 Kyoto and November 29 Geneva. で検討する。

---以上---

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 11月 25日

（報告者記載）予算番号：H21TC100③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井 幹雄　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC 100 (半角)
TC 100 総会	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	AV・マルチメディア・システム・機器 TC100 総会
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 22 日 ～ 200 年 月 日		
開催場所	（国名）イスラエル共和国	（都市名）テルアビブ市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Mark Hyman (USA)	幹事国 日本NC	
参加国及び参加人数	10ヶ国、主な国名 日、米、中、韓、UK,、蘭、芬、仏、諾、新坡、TC108、ecma、参加人数（53）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○平川 秀治（東芝）、○南典政（パナソニック）、江崎正、伊賀弘幸、杉浦博明、大高秀樹、向井幹雄、村岡裕明、松村秀一、榊原宏紀、由雄淳一（以上 TC100 Sec/TAM/TS）、他 7 名		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今年の TC 100 総会は、第 73 回 IEC テルアビブ総会と同時開催で、最終日 10 月 22 日木曜日に開催した。議題は、18 日日曜日午後に開催された AGM で事前確認は行われていたものの総会としての最終確認、および今回開催された TA の結果報告、TC 100 のみの議題であるリエゾンからの報告であった。

今回は TAM、TS の交替があり紹介された。TA4 TAM の Ed. Barrett さんが退任、TS の J. Y. Lee さんが TAM に、Kwang-Soon Choi さんが TS に新任、TA6 TAM が野谷さんから大高さん(パナソニック)に交替、Barrett さんは TA9 TAM も兼務していたため、James Williamson さんに交替、TA 12 (Energy Efficiency) が新設され TAM は Jon Fairhurst さんに、TS は伊賀さんが兼務する。

TC 100 の Directives 補遺である Guideline and Procedures を ISO/IEC Directives に取り込む作業が行われていることが紹介された。Technical Area についても、ISO/IEC Directives Part 3 に記述されるよていである。

Micro USB をつかう携帯電話端末充電の標準化に関して、USB-IF からリエゾンレターを受け取ったため、回答して TC 100 で国際標準化作業を進めたいという回答文書を作成することに決まった。

TA9 と TA10 の Scope 変更提案を承認した。TA9 は、data applications を application data に読み替える。TA10 は e-book viewers を e-book players に変更する。

リエゾン関係では、Kate Grant から JTC1/SC29 と ISO SCIT について、Mark Yonge から AES とのリエゾン活動について報告された。SMPTE とのリエゾンには大高さんが TC 100→SMPTE のリエゾン担当に決まった。SMPTE→TC 100 の逆方向も担当することになる。ATSC とのリエゾンは US NC で人選してもらう（その後、Jeff Howell に決まった）。

Normative Reference については、幹事が準備した文書に ETSI と IETF を加えることになり、仕組み自体も承認された。

ホスト国のイスラエル NC に感謝し、12 時 45 分に会議を終了した。次回はシアトル大会と同時開催で、2010 年 10 月 15 日に TC 100 総会を開催したい旨、US NC に伝えてもらうことになった。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009年 10月 27日

（報告者記載）予算番号：H21TC100④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：小町祐史　（会社名）大阪工大

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC100/AGS (半角)
TC100/AGS TC100/AGM	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	TC100 戦略諮問会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 18日 ～ 2009年 10月 22日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	小町祐史	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4地域、主な地域名 北米(2), ヨーロッパ(2), 南半球(1), アジアパシフィック(3), 参加人数（36） (注: TC100/AGS への参加は, 国ではなく, 地域からの代表による。)		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○小町祐史(大阪工大), 平川秀治(東芝), 由雄淳一(パイオニア), 向井幹雄(ソニー), 伊賀弘幸(東芝), 南典政(パナソニック), 稲垣(ソニー), 飯田(電通), 江崎(ソニー), 松村(富士通), 蔭山(パナソニック), 大高(パナソニック), 榊原(富士通), 塚田(JVC ケンウッド)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC100 のスコープ内の新技術に関して次の議論と決定を行った。

1. AGS メンバ確認

Mr. Keith Jones を南半球地域からのメンバとして承認した。それに伴い，TC100 Guidelines and Procedures の修正の必要性を確認した。

2. 前回案件のフォロー

(1) 主として SMPTE DC28 の活動が[370]によって報告された。M. Hyman は既に SMPTE から離れているが，本トピックについては，今後も彼に報告してもらうことにを確認した。

(2) TC100 security に関して TC100 guidelines and procedures の次の改訂に含める内容として[376]を受理し，AGM に送付することにした。

(3) TC100 security と同様の形式で TC100 accessibility についても TC100 guidelines and procedures の次の改訂に含めてはどうか, との平川さんからの提案があり, その内容を Ms. Baronas と Dr. Grant とに提案してもらうことにした。

(4) [SMB/4040/RM]の Decision 135/9 に従って行われた SG1 の活動報告として，[380]が提出され，その概要のプレゼンが行われた。TC100 は Energy efficiency を扱う TA12 を既に設立しているが, SG1 への対応等について Adhoc Group の活動を継続した方がいいとの平川さんの提案があり, 従来どおりそのリーダを Ms. Baronas とすることをも含めてその提案を承認した。

(5) Ms. Baronas からの提案を受け，各 TA に対して SMB SG3 の Smart Grid framework に関する適切な標準化活動の議論をお願いすることにした。

(6) TC59 の文書 2 件[371]に関する報告を受けた。IEC 62301/Ed2/CDV に規定される standby power consumption について TC100 との今後の調整が必要と思われるため，南さんにリエゾン活動の継続をお願いした。

(7) [372]に示されるとおり，Power transfer by radio communication に関する SB4 の報告(2009-04)があり，SMB が[SMB/4010A/DC]の項目 17 において Contactless power transmission の課題を TC100 に割当てている(2009-09)ため，このトピックに関する TC100 の position paper を作成することにした。

(8) USB Implementation Forum に対する平川さんの非公式リエゾン活動が報告され，USB 規定内容を IEC 規格として Normative Reference に USB を記載することへの期待を実現するため，AGM にリエゾン関係の設立を依頼することにした。

(9) 10 月 25 日に開催される第 2 回の Ad-Hoc of IEC TC 100 High level meeting の議題が[377]によって示され，今後の対応継続を平川さんにお願いした。

(10) [377]に示された内容に基づいて New TC100 standardization model の NP を提案することを由雄さんにお願いした。

3. 新規案件

(1) [379]に示されるとおり，US TAG での議論を考慮し，TC100 のスコープには ICT, PC というキーワードは明示的に含めない方がよく，したがってスコープの修正はしない方が望ましい，との平川さんからの提案を受けて，これを承認した。

(2) [375]によってこれまでの PACT の活動とその報告への TC100 の対応が示され，PACT がなくなってその活動が MSB に引き継がれたとはいえ，新技術に関する規格への利用者要求を TC100 として議論する必要性が提示された。そこで向井さんをリーダとする Adhoc Group を作ってこの要求に応えることにした。さらにこの活動は利用者要求を明らかにすることを主眼とするので，5.2(6)の New TC100 standardization model の開発と異なることを確認した。

(3) Multimedia home network configuration のプロジェクトの推進過程で出てきた関連用語の標準化の必要性が[378]によって示された。そこで，このプロジェクトの開発対象に追加のパートを設けて，そのパートにこの用語を規定することにした。

4. 関連活動の報告

(1) Ms. Baronas によって[374]の内容が報告され，今後も活動報告の継続をお願いすることにした。

(2) Mr. J. Fairhurst によって CEA の 3D に関する活動内容[382]が報告され，今後も活動報告の継続をお願いすることにした。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009年 12月 1日

（報告者記載）予算番号：H21TC100⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：/向井 幹雄□□　報告書作成者氏名：　江崎 正　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC 100 (半角)
TC 100 AGM	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器、運営諮問委員会
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 18日 ～ 2009年 10月 18日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Mark Hyman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 日、米、英、芬、韓、蘭、独、中、豪□、参加人数（40）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○江崎（ソニー）、平川(東芝)、小町（大工大）、南（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ）、伊賀（東芝）、大高･野谷（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ）、村岡（東北大）、向井（ソニー）、松村･榊原（富士通）、植村（電機大）、由雄（パイオニア）、稲垣（METI）、蔭山（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ）、飯田（電通）、塚田（JVC･ケンウッドホールディングス）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC 100 AGM は TC 100 のオフィサーが集まり運営について審議、決定を行なう委員会である。TC 100 の活動に極めて重要な役割を担っており、幹事国として適切に運営を行なった。主な議事は以下の通り。

・TA 4 (デジタル・インターフェース)の TAM、TS に韓国の Lee 氏、Choi 氏が各々就任した。TA 6（放送業務用ストレージ）の TAM が野谷氏から大高氏に交代した。 TA 9 (AV Multimedia のホームネットワーク)の TAM に米国の James Williamson 氏が就任した。

・省エネに関する TA 12 が設置された。TAM は Jon Fairurst 氏 (米 Sharp Lab.)、TS は伊賀氏（東芝）。

・TC 108 と TC 100 の役割分担について米国 Jean Baronas 氏のアレンジで幹事同士で話し合いを続けている。TC 108 からは時間をかけて議論すべきとの意見があり、引き続き検討を進めていくこととした。これに関連して Scope の変更について各国意見を求めたが、反対意見もあり、Scope は変更しないこととした。

・1906 Award　日本からは鳥羽氏（東芝キャリア）、飯田氏（電通）の 2 名が受賞した。

・仏語版の対応　英語版のみでの回覧の特例は廃止された。審議を遅らせる意図はなく、文書は従来通り遅滞なく回覧される。CD、CDV、FDIS について仏 NC に Word 文書を送付することが要請された。

・DMT　TC 100 の Procedure を ISO/IEC Directives の IEC Supplement に Annex として入れ込むことになり、Annex 案が CO から提示された。修正版を返答した。

・Normative reference のルール　Normative reference に載せてよい団体についてのルールが了承された。ITU-R、ITU-T、AES、SMPTE、IEEE、ETSI がリストに載る。

・出版日付の入った Normative reference の更新について各国意見を求めた。作業量の増加について GMT で議論。

・NP のアロケーション　2 件の NP について担当する TA を決めた。

・ポータブル機器用バッテリーチャージャーインターフェース　USB Implementaion Forum から Normative reference として Refer されることを受け入れるとのレターが来た。TC 100 としては、USB の Spec を TC 100 で標準化すべきとの意見で一致し、USB IF に Spec を TC 100 に提案するようレターを返すことにした。

・SMPTE とのリエゾンとして大高氏をアサインすることが了承された。

以上、議事はほぼ日本の予定通りに進めることができた。次回は 2010-05 に Athens で開催の予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009 年 11 月 13 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100⑫

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：大橋　芳雄　稲永 潔文　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/GMT (半角)
TC100/GMT	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	ジェネラルメインテナンス会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 18 日 ～ 2009 年 10 月 22 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	J. M. Woodgate	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 日本、UK、AES 参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○稲永(ソニー)、江崎(ソニー)、大橋（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

TC100/GMT 会議に、MT61938、MT60268-7 の PL およびエキスパートとして出席し、進捗報告と審議を行った。同会議にて、下記メンテナンスに関しての進捗報告と決定が行われた。

MT60268－4：CDV が NC に回覧された。反対意見は無く投票が締め切られた。AES からのコメントを、draft に加えた。

MT60268－7：稲永氏から MT の進捗が報告された。現在 FDIS が回覧され、投票締め切りは、2009 年 11 月 27 日である。

MT60268－16：2nd CD が NC に回覧されコメント期限が締め切られた。12 月末までに CDV に続いて CC を準備する。

MT 61606-1, -2：規格が成立し、プロジェクトは終了した。

MT 61938：PL の大橋から進捗が報告された。プロジェクトは開始したばかりのため、紹介程度にとどまった。GMM から、table 8 を考慮すべきとのコメントがあった。本報告の詳細は TC100-⑤_MT61938 に報告する。

プロジェクトの会議、合意を 2010 年 2 月末日、1CD の提出は 2010 年 4 月末日。

リエゾンの紹介：AES からのリエゾン情報が紹介された。IEC 60268-4 は、現在の改訂終了後ただちに新たな改訂作業に入る。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 11 月 13 日

（報告者記載）整理番号：H21TC100⑬

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：大橋芳雄　稲永　潔文（会社名）ソニー㈱

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC100/MT61938 (半角)
TC100/MT61938	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	TC100/MT61938 プロジェクト
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 18 日 ～ 2009 年 10 月 22 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	大橋　芳雄（ソニー）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 UK、AES、日本、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○大橋（ソニー）、稲永（ソニー）、江崎（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景

現在、オーディオ、ビデオ装置、AV システム装置間のアナログ信号による相互接続の規格として IEC61938 が制定されているが、現在の新たな商品状況と技術変化に適応するよう修正が必要になってきた。

目的

プロ本ジェクトにおいて、上記規格にヘッドホンと携帯音楽プレーヤの相互接続を新たに提案し加えること。規格化に当たっては、現在議論中のヘッドホン最大音圧規制を視野に入れて、音圧の項目および測定方法として現在審議中の MT60268-7 が引用されるようにすること。さらに、マイクロホンとマイクロホンアンプの相互接続の修正作業。

成果

TC100/GMT と同時に MT61938 プロジェクト会議を開催し、以下の報告を行い承認された。なお、本プロジェクトは 2009 年 5 月から開始したばかりなので、改定の概要報告にとどまった。

1　プロジェクトメンバー紹介。
2　マイクロホン-マイクロホンアンプの相互接続に関して、改訂の背景と改定のポイント。
3　ヘッドホン-携帯音楽プレーヤの相互接続に関して、改訂の背景と改定のポイント。
4　今後のスケジュール。

コメント、決定事項

GMM の John Woodgate 氏から、table 8 を参照にして改訂すべきとのコメントがあった。また、今後は高感度ヘッドホンの開発はどうなのかというコメントがあった。これに対して、稲永氏から、今後とも高感度、低歪、広帯域の開発はトランスジューサにとって不可欠だとの意見があった。

プロジェクトの会議、合意は時間をかけてじっくりと取り組むようにとのコメントから 2010 年 2 月末日、1CD の提出は 2010 年 4 月末日となった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2007.7)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA1-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009年　12 月1日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA1①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　伊賀弘幸　　報告書作成者氏名：　伊賀弘幸　（会社名）株式会社東芝

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA1 (半角)
TC100/TA1 TA1 会議	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	放送用エンドユーザ機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 10 月 21 日 ～ 2009 年 10 月 21 日		
開　催　場　所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Favid Felland	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	TA1 会議　5ヶ国、主な国名 日、米、韓、蘭、豪　参加人数（7）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○伊賀弘幸（東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC100 総会に合わせて開催された TA1 会議にテクニカルセクレタリとして出席した。また、TA12 の IEC 62087 メンテナンス会議には日本から一名エキスパートを出すことで補助を承認頂いていたが、都合で欠席したので、TA12 のテクニカルセクレタリを兼務している小職が、TA12 の会議と併せて、概要を報告する。

1. TA1 会議

Technical Area Manager が都合により欠席。IEC 62637-1, -2 "2mm barrel battery charging interface for small hand held devices - Part 1: Specification, part 2: Conformance testing"が現在 CD 回付中でもあり、特に現行 PJ に関する特記事項はなかった。

前回提起された Scope を広げる議論は次回に持ち越し。

2. TA12/ 62087 Maintetnance (STB 消費電力測定法)会議

参加国：5 カ国（日、豪、米、独、中）　参加人数：12 名

6/26 に締め切られた 100/1528/CD に対するコメントを基に CD 審議を行った。日本からのコメントは概ね反映されたと思う。PL の宿題もあり、11/12 に Follow Up の電話会議が予定されている。現時点で特に大きな懸念事項はないと思われる。PL は年内に CDV 発行としたい意向。

3. TA12 会議（最近発足した新 TA）

参加国：5 カ国（日、豪、米、独、韓）　参加人数：14 名

Title: Energy Efficiency

Scope: 下記の内容で合意された。

This Technical Area (TA) is responsible for developing the standard measurement methods for the power use of televisions, set top boxes (STB), audio equipment, multi-function equipment, and multimedia systems and equipment. The measurement methods will address equipment that connects to the power mains. The measurement methods will also address normal use conditions. To the extent practicable, the participants in this TA will evaluate and potentially define the various operating modes in terms of their power use. The participants will also consider the approaches for saving energy through the standardization of control mechanisms in networked multimedia equipment.

Ad hoc グループを作って、STB 改定後の IEC 62087 を検討することが決った。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA2-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 12 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA2①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：杉浦 博明　報告書作成者氏名：杉浦 博明　（会社名）三菱電機(株)

出席会議名（半角） TC100/TA2	区　分 ☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名　称（日本語） ☐単独開催 ☒同時開催	TC100/TA2（半角） 色彩測定およびカラーマネジメント
開催期日	2009 年 10 月 18 日 ～ 2009 年 10 月 22 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	杉浦 博明（日本）	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、英国、参加人数（4）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○杉浦 博明(三菱電機)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．フランスから提案されている Gamut ID(コンテンツに付される色域情報)メタデータ(IEC 61966-12)と日本から提案予定の xvYCC(IEC 61966-2-4、動画用拡張色空間)向けに限定した色域情報のメタデータの関係を調整するための Ad-Hoc グループを立ち上げることで合意した。

2．上記 Ad-Hoc グループを立ち上げるための DC 文書を発行する。回答期限： 2010 年 1 月 8 日

3．日本としては、フランス提案を編集機器などの業務用途に限定し、民生機器への実装が強制されないようにしたい。つまりフランス提案を民生機器に対して無力化したい。現状のままフランス提案が標準化されると、テレビ等に対してトムソン社が特許として保有する技術を実装することが強制される懸念がある。

4．民生機器向けには、IEC 61966-2-4(xvYCC)の早期改定を実施し、民生機器に必要最小限かつ他社特許の心配のない技術(JEITA 案)を標準化する。これにより業務用機器の標準と民生機器の標準を分けたいというのが日本の意向。

5．その他、TA2 会議での結論は、TC100 プレナリー会議において全て承認された。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA4-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009年 11月 13日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA4⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　蔭山　惠　　報告書作成者氏名：　蔭山　惠　（会社名）パナソニック株式会

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
TC 100/TA4	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	デジタルシステムインタフェース＆プロトコル
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009年 10月 19日		
開　催　場　所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. Jae-Young Lee	幹事国　韓国	
参　加　国及び 参　加　人　数	4ヶ国、主な国名　日本、中国、韓国、オランダ　参加人数(8)		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○ 蔭山 惠(パナソニック)、由雄淳一(パイオニア)、江島直樹(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的

TA4 には日本から開発・改定提案中の規格案件が多数ある。（準備中含め５件）これらはいずれも日本が主導的に事業を推進しているＡＶ機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。早期規格改定の推進は日本国にとって非常に重要である。

内容・成果

・前 TAM の退任により、前 TS の Dr. Jae-Young Lee が新 TAM に、Mr. Kwang Soon Choi が新 TS に就任したことが報告され、挨拶があった。
・今回の会議で日本改定提案として特に重要なインタフェース規格である IEC 60958-3 に関して PL の由雄氏から次期改訂計画が報告されメンバーに共有化された。
・日本から IEC 61937-2 の改定提案が行われた。公式に着手すべき案件として DC 文書の発行が PL の江島氏から TS に要求され、承認された。
・IEC 61883-6、IEC 61937-10、IEC 61937-12 など開発・改定中のプロジェクトに関し状況・課題の共有化が行われた。
・更に今後メンテナンスが必要な規格（日本提案）に対する情報を蔭山氏から提供し方向付けが議論された。
・TA のスコープについて議論されたが特に変更はなかった。
・リエゾン関係の見直しが議論され USB Implementers Forum とのリエゾンが必要との意見が出、TC100 プレナリー会議にて要求を行うことが決定された。
・Stabilized Project の議論を行ったが、TA4 では該当プロジェクトはなかった。

問題点

特になし

次回開催

2010.10 TC100 Plenary 会議（シアトル）に合わせて実施予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA6-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 28 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA6②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　大高　秀樹　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA6 (半角)
TC100/TA6	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	放送･業務用ストレージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 10 月 20 日 ～ 2009 年 10 月 20 日		
開　催　場　所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	(出席した会議のﾁｪｱﾏﾝ or ｺﾝﾍﾞﾅの氏名) Mr. Hideki Ohtaka	幹事国　(国際幹事の国名) 日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	5ヶ国、中国、ドイツ、日本、英国、米国　参加人数（15）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 向井幹雄（ソニー）、○大高秀樹(パナソニック)、○野谷正明(パナソニック)、 ○塚田幸司（JVC・ケンウッド）、江崎正(ソニー)、村岡裕明(東北大学)、由雄淳一(パイオニア)、 杉崎公宣(ソニー)、蔭山惠(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

目的：プロジェクト進捗とアクションプランの確認、新規プロジェクト検討、SMPTE リエゾン問題解決

内容：1) 進行中プロジェクト

・PT 62261（メタデータディクショナリ更新）
SMPTE とのリエゾン再構築待ち状態。SMPTE と同期したディクショナリ更新手続きが課題。

・MT 60461（タイムコード規格改訂）
CDV が承認され IS 文書の準備中であることが報告された。

・PT 62644（タイムコード伝送規格策定）
NP 承認が報告され、SMPTE とのリエゾン再構築を待って CD 作成予定。

・PWI 100-3（テープレスカムコーダ）
Stage 0 プロジェクトの NP 承認が報告され、現状のテープレスカムコーダ商品の調査結果がレビューされた。2010 年末を目標にテクニカルレポートを作成予定。

2) 新規プロジェクト

・62261-1, 2 メタデータ規格改訂
メンテナンス期間を 2 年間延長し、SMPTE とのリエゾン再構築、参照 SMPTE 規格の改訂作業完了を待ってメンテナンスに着手予定。

3) 将来プロジェクト
MXF、新タイムコードに関し、SMPTE の審議状況を見ながら引き続き IEC 標準化の可能性を検討する。

4) その他
TA6 のタイトル／スコープ確認、メンテナンスリスト、Program of work 確認、リエゾン報告

成果：SMPTE リエゾン問題のため TA6 傘下の 3 アイテムが保留中であったが、TA6 としてリエゾン担当者のアサインを提案し（TC100 で正式に承認済）、今後アイテム毎にコミュニケーションを開始する予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA7-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 12 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA7②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：向井幹雄　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角） TC100/TA7	区分 ☒TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA7（半角）
		名称（日本語）	AV マルチメディア民生用ストレージ
		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 20 日 ～ 2009 年 10 月 20 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	向井幹雄	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、中国、アメリカ、イギリス、ドイツ、イスラエル参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○村岡裕明(東北大学)、○向井幹雄(ソニー)、江崎正(ソニー)、由雄淳一(パイオニア)、○ 杉崎公宣(ソニー)、大高秀樹(パナソニック)、野谷正明(パナソニック)、塚田幸司（JVC･ケンウッド）、蔭山惠(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

・村岡議長より、会議の開催、アジェンダの確認があり、現行案どおり承認された。
・前回会議の議事録について、異議なく承認された。
・各プロジェクトの報告
- MT61834-4
杉崎 PL より、CDV の投票の結果、100% Yes で、Editorial comment が 1 件。次は、ファイナルドキュメントを作成の上、2010-01 頃 IS 発行となるとの報告があった。
- PT62952
平林 PL が欠席のため、Technical Secretary より、DTS 投票が 100% Yes 投票、コメントなしで通過し、2009-09 に IS 出版された旨、報告がされた。
- Audio Archive
先回のワシントン AGM で Stage0 提案が了承されたので、今回会議の結果田中先生が作成した NP 内容を付した DC を Stage0 発足するため提出することになった（提出は TC100 国内委員会承認後の 12 月となる見込み）。
・将来のプロジェクトの情報共有として、由雄委員より iVDR の報告がされた。
・Technical Secretary より昨年度改定された TA7 のタイトルおよびスコープの照会、確認があった。
・規格文書のメインテナンスが確認され、60774-4,62121 は Stabilize に、62389 を 5 年後の見直しが承認された。
・規格化進捗状況のレビューおよび確認が行われた。
・各リエゾンからの関連事項に対しての報告が行われた。
・その他
- Market Relevance Task Force に、TA7 として Pilot Evaluation に同意した。
- Accessibility Project に関係があるものについて、協力することに同意した。
・次回開催は、2010 年 10 月の USA/Seattle の TC100 総会と同時開催予定との連絡の後、閉会。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA8-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009 年 12 月 1日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA8①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：　松村秀一　（会社名）富士通（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA8 (半角)
TC100/TA8	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	マルチメディアホームサーバシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 21 日 ～ 2009 年 10 月 21 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	松村　秀一	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、イスラエル、オランダ、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○松村（富士通）、○榊原（富士通）、○飯田（電通）、江崎（ソニー）、由雄（パイオニア）、		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景・目的

TA8 会議としては 2008 年 10 月のサンパウロに次ぐ会議となり、以下の項目を審議することが主目的である。

1)議題・前回議事録

アジェンダ、及び前回議事録は異議なく承認された。

2)　Project

- PT62291:TR Application Program Interface for UDF Based File Systems：100/1452/DTR が 2009 年 1 月に承認され、2 月 25 日 TR が出版されたことを説明した。

-PT62579 Conceptual Model For Domain Management ：1st CD に対し、フランス NC からコメントを受け、プロジェクト内で議論した内容(100/1612/CC ドキュメント)を説明。プロジェクト内の議論に沿って 1st CD を修正し、DTS として回付されていることを報告した。DTS の投票締め切りは、2010 年 1 月 8 日。

- PT:62636 Guidelines for implementing digital rights permission code ：DTR が承認され、現在 BPUB 段階であることを報告。Permission Code の想定適用サービス、適用に向けた提案状況などを紹介した。

- Next project : ITU-T SG16/Q13 とのコラボレーションとして、共通の課題である Rights Information に関する規格策定について、検討を始めたことを紹介した。

3)リエゾン関係

- IEC62227 / IEC62636 に関し、JTC1/SC29 からの Liaison Statement を報告、ITU-T SG16/Q13 Rapporteur、TA8 TAM、JTC1 SC29/WG11 ITU-TSG16/Q13 リエゾンオフィサー代理の 3 者で意見交換したことを紹介した。

4) メンテナンス

- 本期間中は対象がないことを報告した。

5)　その他

- スコープのレビューが行われ、変更しないことが確認された。

- MRJ(Market Relevance Justification)、Accessibility、Post-PACT など AGS/AGM 会議で紹介された議題を参加者に紹介し、情報共有した。

6) 次回会議

2010 年 10 月 USA(Seattle）の TC100 総会と同時開催を連絡し、閉会。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA10-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 11 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA10①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：植村八潮　（会社名）東京電機大学

出席会議名（半角） TC100/TA10	区分 ☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名称（日本語） ☐単独開催 ☒同時開催	TC100/TA10（半角） マルチメディア電子出版及び電子書籍
開催期日	2009 年 10 月 18 日 ～ 2009 年 10 月 22 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	植村八潮	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 日本，米国，ドイツ、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○植村八潮（東京電機大学），○齋鹿尚史（シャープ），向井幹雄（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

【背景】コンテンツの流通と増加を背景に，電子機器とシステムによる電子出版ビジネスが注目されている。

【目的】電子書籍リーダー及び電子出版システムの製品化が相次ぎ，普及促進とシステム間の互換性確保のため，電子書籍関連の標準化が求められてきた。

【経過】2006 年 5 月ヘルシンキの TC100/AGM 会議において，TA10 Multimedia e-Publishing and e-Book の新規設立が承認され，同年 9 月ベルリンで第 1 回，2008 年 11 月サンパウロで第 3 回 TA10 国際会議を開催した。2009 年ワシントンでの TC100/AGM 会議で現在までの進捗状況を報告している。現在までに，TS 62229 で電子出版の市場形成及び電子書籍コンテンツの流通・交換のための標準概念モデルを定義し，IS 62448 では 62229 で提案した Generic format を定義し，さらに 2nd editon とし，また IS62524 で Reader's format を定義した。

【成果】

PT62571　デジタルオーディオブック（Audio Book）

PL の代理として Hayes さんが口頭により進捗状況を報告した。CDV 投票が 9 月 11 日に締め切られて 100%の賛成投票で二つのコメントが寄せられた。コメント対応案について承認された。

PT 62605　電子辞書フォーマット（E-dictionary format）

PL の齋鹿さんにより進捗状況が資料に基づいて報告された。CD 投票は 7 月 3 日に締め切られ，二つのテクニカルコメントが寄せられた。コメント対応案の説明があり検討後承認された。引き続き CDV 案の作成が承認された。

PTXXXXX　印刷物用音声プレゼンテーションのための模様図（Texture map）

NP 案は 9 月 10 日に中央事務局に提出され，12 月 18 日締切で回覧中である。PL の深見氏に代わり TAM により NP 案の概要を報告され，英語対応試作機を用いてデモが行われた。TC100 にふさわしいユニバーサルアクセス技術として期待された。今回のコメントは，各国 NC コメントとして NP 投票に付されることとなる。

新規プロジェクトの提案

・デジタルコミックフォーマットの標準化：デジタルコミックの概要が齋鹿さんより報告され，標準化の必要性について検討された。NP 提案が期待された。

・電子書籍交換用ストレージメディア配布ガイドライン：小町さんに代わり TAM により DTR が準備中であることが報告された。今後，レビューし Draft TR として IEC/TC100 に提出する。

【スコープの確認】

TA10 のスコープとタイトルについて検討した。現在，オーディオブックや印刷物用音声プレゼンテーションなどオーディオ機能について標準化の検討がすすんでいる。また現在発売されている eBook リーダーにはオーディオ機能がついている。このことから，従来，viewers（表示装置）と表現されていた箇所を players に変更することにした。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA11-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009年 11月 9日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA11①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：由雄淳一　報告書作成者氏名：由雄淳一　（会社名）パイオニア（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA11（半角）
TC100/TA11	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	AV ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑの品質
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年 10月 21日 ～ 2009年 10月 21日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	由雄淳一	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本、英国、ドイツ、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○由雄淳一（パイオニア）、蔭山恵（パナソニック）、江島直樹（パナソニック）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

目的：既存プロジェクトと新規プロジェクトについて審議し、運営について検討する。

成果：

1．既存プロジェクト

（1）IEC 62312-1-2, IEC 62312-1-3：AV シンクロ測定法（TV とレコーダー）は JEITA で新しいエキスパートをアサインしプロジェクト遅延を回復することが報告された。

（2）IEC 62557：クォリティの用語は共通化に困難があり分野を細分し、オーディオのみ、ビデオのみ、オーディオとビデオ（リップシンクなど）としマルチパート化することに修正することを承認した。

（3）。IEC 62503 関連

このリップシンク評価規格に関連し JEITA で行ったリップシンク実験について概要が報告された。この後英訳し TC100 へ報告書（TR）を提出する、また SMPTE からこの報告書への強い要望があり、出来次第 TC100 より先に提供することとした。

2．新規プロジェクト

以下の新規案件の NP が各国で検討されておりこの後 IEC に提案される。

（1）ラウドネス関連：JEITA のミラーコミッティの TA11 対応 G でラウドネス検討 G が発足し関連問題説明とその解決の規格化を開始したことが報告された。NP に向け AES、ITU とのリエゾンを取る。

（2）スピーカーアサインメントと音場関連：ドイツから Spacial Audio の NP 案について説明された。内容は音源位置情報メタデータ定義で了解されこの後提案する。なお既存の関連規格との整合性が重要であり関係団体とリエゾンを取る。

（3）オーディオ品質評価：日本から提案することを説明、AES の活動と連携する。

（4）ビデオ品質評価：ITU-T、VQEG がビデオ配信においてエンドユーザー機器まで含めた検討をしており TA11 はこれらとリエゾンをとり日本では上記同様 TA11 対応 G で検討する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議･承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議･承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／CISPR-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日: 2009 年 11月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21CISPR①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　堀　和行　　報告書作成者氏名：　堀　和行　（会社名）ソニー ㈱

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	CISRP SC-I (半角)
CISPR SC-I WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	マルチメディア機器等に関する EMC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 10 月 19 日 ～ 2009 年 10 月 23 日		
開催場所	（国名）USA	（都市名）ヒルスボロ(ポートランド)	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Martin Wright(SC-I)/ Ronald Storrs(WG2)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	8 ヶ国、主な国名 スウェーデン、英国、オランダ、ドイツ、フランス、米国、参加人数（28）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄(NTT アドバンストテクノロジ㈱)、秋山 佳春／NTT 環境エネルギー研究所、長部 邦廣／㈱VLAC、羽田 隆晴(㈶日本品質保証機構)、山口 高／VCCI、田中 信昭(富士通アドバンステクノロジ㈱) ○千代島 敏夫／㈱PFU、○堀 和行／ソニー㈱		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景・目的：CISPR SC-I WG2 は、マルチメディア機器の EMI 規格(CISPR 32)を担当している。2009 年 3 月に回付された CISPR/I/295/CD に対し、約７００件のコメントが各国から寄せられた。今回この各国コメントを踏まえ事前に準備されたワーキング文書の審議、及び、CDV に進むかどうか議論した。日本から 2 件の寄与文書を提出しており、JEITA として意見反映が必要である。

主な成果：

1) 衛星放送室外機に関する全ての要求を CDV 案から削除し、別文書(CD)を準備する。別文書(CD)には明確な手続/測定法を記載する。(CDV 案に)削除理由等の説明文を追加。

2) 同軸遮蔽効果代替法に関する要求を削除してほしいという NC からの提案を承認し、CDV 案から関連する要求を全て削除する。

3) RVC (Reverberation Chamber)、GTEM(GHz Transverse Electromagnetic waveguide (cell))に関する全ての要求を CDV 案から削除し、別文書(CD)を準備する。

4) FAR：日本からの寄与文書(小型床置機器について、SAC と FAR 間で最大 15dB の差が確認、テーブルトップ機器の場合は 2-3dB 程度)承認。卓上装置に限定することとなった。また、FAR に関する全ての要求を CDV 案から削除し、別文書(CD)を準備する。

5) 2dB ルール～審議の結果、現状案通り盛り込むことが決定。

6) HID (Human Interface Device)の配置 CISPR22 と同一にする日本提案は原則承認され、EUT 台前面への配置は推奨とする旨が追加されることになった。

今後の予定：CDV 案完成 1 月末予定、仏語翻訳後各国委員会への回付、CDV 投票(5 ヶ月間)を予定。
衛星放送室外機、RVC、GTEM、FAR に関する CD 案の作成、WG2 メンバー回覧、コメント募集を 1 月 1 日～2 月末に実施予定。
次回 WG2 開催　2010 年 5 月@場所未定～CD 案に対するコメントを審議する予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 11 月 24 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　報告書作成者氏名：小橋　一夫　（会社名）JEITA・事務局

出席会議名（半角） SC31/WG5	区　分 ☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名　称（日本語） ☒単独開催　☐同時開催	JTC1/SC31（半角） 自動認識及びデータ取得技術
開催期日	2009 年 10 月 15 日 ～ 2009 年 10 月 16 日		
開催場所	（国名）アイルランド	（都市名）ダブリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Marsha Harmon	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 米国、韓国、アイルランド、ドイツ、日本、ロシア、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○ 小橋一夫（JEITA･事務局）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

RTLS（Real Time Locating System）としては、2.4GHz の周波数を利用する Interface Protocol のみが規格化されている状況である。このような中で、韓国が現状規格の改定案を提起しており、その NP 投票結果に基づく BRM（Ballot Resolution Meeting）が主要テーマであった。さらに、新しい RTLS の方式として、UWB（Ultra Wide Band：超高帯域通信）を用いた NWIP が米国からあり、その内容についても紹介があった。アイルランドの decaWave 社からは、UWB を用いた RTLS のデモも行われ、その距離測定精度が、従来システムより良好であることが示された。

従来方式は、日本の電波規制に合致しない中で、今後の方向性を確認するための、情報入手中心の参加である。

①ISO/IEC 24730-2 への改定 NP 結果に対する BRM
米国から、反対投票と併せてかなりの数のコメントが出されたが、韓国側は米国コメントを否定する見解を示し対立。米国は、最終案として、従来方式（米国提案）を残す形の改定を提起し、現行規格を 2 パート構成の規格として再構成することで決着。（タイトル、スコープ等の変更が必要）

②UWB を用いる新たな方式の提案（米国）
米国､EU で利用が認められている帯域を利用したシステムとして提案されている。距離精度は､これまでの 2.4GHz を用いたものより格段に向上する。（日本での電波利用規制には合致しない仕様であり、要検討）

③decaWave 社によるデモ
会議を行ったホテルのロビーで行われた。
タグサイズではなく、B5 サイズ程度の機能モデル 2 台での相互間距離計測デモ。パソコン画面での表示は cm 単位。台車の移動に伴った距離表示は、不安定さもなく一応の水準にあるものと判断された。

＜今後の会議予定＞
・2010 年 3 月 25-26 日：韓国・済州島
・2010 年 10 月 14-15 日：米国（場所未定）

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議･承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議･承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／JISC/CENELEC-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009年 11月 10日

（報告者記載）予算番号：H21JISC/CENELEC①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：江崎 正　報告書作成者氏名：江崎 正　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	JISC/CENELEC (半角)
JISC-CENELEC 情報交換会	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	日本工業標準調査会／欧州電気標準化委員会 情報交換会
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009年 11月 4日 ～ 2009年 11月 6日		
開催場所	（国名）イタリア	（都市名）ミラノ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Sesena (ICT-WG)	幹事国 スペイン	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日、スペイン、イタリア、オーストリア、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○江崎(ｿﾆｰ)、○南(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ)、平川(東芝)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

JISC-CENELEC 情報交換会は相互の協力関係を築くべく、年１回情報交換会を行なっている。今年は、11/4～6 にミラノの CEI（イタリア標準化協会）にて開催された。ICT、Railway、EMC、EMF、Design Automation の 5 つの WG に分かれて議論を行い、最終日の Plenary で結果が報告された。Plenary では他に、消費者の参加、省エネと Smart Grid についてプレゼンと Q&A があった。全体では双方とも約 30 名以上が参加した。

ICT-WG には、CENELEC TC 206 の議長（Dr. Sesena）、幹事（Mr. Valenta）、IEC TC 100 の幹事・副幹事（平川、南、江崎）、他計 7 名が参加。AV&IT エリアの標準化テーマについて、IEC TC 100 のテルアビブ会議の結果を中心に紹介、議論した。その結果、下記の結論を得た。

・デジタル放送への移行の状況は欧州は国によって時期は違うが、問題点や対策などはほぼ同じと認識
・CENELEC TC 206 と IEC TC 100 の情報交換を密にするべく、CLC TC 206 Secretary の Mr. Valenta を TC 100 へのリエゾン代表者にすることで合意
・携帯機器用バッテリー・チャージャ・インターフェースとして Micro-USB を TC 100 で規格化していくよう USB Forum にレターを出すことに賛同
・ヘッドホン音圧規制について CENELEC TC 108x/WG 3 へのオブザーバ参加を要請
・Home Network、IPTV について ITU-T、JTC 1、TC 100 の協調の重要性を認識
・EU における R&D 活動の一つである Public Private Partnerships の紹介があり、JEITA 各社に紹介する
・省エネ、Smart Grid、アクセシビリティへの取組みも引き続きウォッチしていく

今後も情報交換を続けるが、頻度を上げ、最低年 2 回は会合を持つことで合意した。（次回は 2010 春に NAB か TC 100 AGS/AGM に合せて開催する予定）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)